



皇都小澤東陽先生著
東都柳川重信先生畫

繪本烈戰功記

東都
浪華書林

知新堂
羣玉堂
合梓

日本金史子稿

市野孫三郎校訂

大遠13
2257
5-24

四四
分号
入

繪

繪本烈戰功記序

嗚乎甚矣。應仁、文之亂

也。諸國尾解。羣雄蜂起。

五霸互興。而擅討伐。十

雉交振。而率閔戰。不知誰

烈戰功記

序

五國

早稻田大學出版部

能為統一之功也。天文永
祿之間。甲斐二將。武石
雷。表。弄。左。其勇實過項
王。信之川中。自。役。龍。帝
俱。闕。螭。蚌。相。持。其。烈。戰

如此者。古今未有之也。
予每讀野史。感於二公之
用兵。神出鬼沒之妙。頃
者為書肆。選出其精華。
得十二卷。題曰烈戰功記。

新傳
如也

ル
ビ
又
ロ

繪本烈戰功記總目次

卷第 壹

武田上杉川中島合戦之来由

武田正兵之十將破上杉之後陣

武田正兵後酒條山並狩川中島圍

上杉勢敗軍之事

武田上杉再大合戦之事

謙信見猛勇臨陣川圍

荒川伊豆斬入武田之本陣

舟槽近江守退口武勇之事

小幡又兵衛尉討上杉殿之勇士圍

今分梓其半以布為子
之淺夢鄙才。因不免為
謬。覽者幸恕容焉。
素永四年辛亥秋九月

小澤宗小陽



新編 卷二

川中島合戦評論

其糟景時涉摩川侍敵圖

川中島戰場之圖

軍配團扇之事

惠林寺什物之事

山本勘久之事 兵法傳來

山本道鬼授兵道於馬場景一由圖

兵法辨論

萩原謀而誘小柴見宮内事

茂親

武田北條松山城攻之事

其利左衛門尉與米倉彦次郎馬壘圖

謙信後而向松山之後詰事

上杉勢攻取山根城圖

信玄下墨於北條氏改事

上杉法坊寺口合戦之事 土肥赤石殿武勇之事

土肥大膳赤石豐後拔大本圖

松山落城之事 山根城陥落之事

武田勝頼伊奈郡代之事

長沼長八郎之傳 青柳柳之介討長沼長右衛門圖

川中島合戦

コノヒ

5

小幡信定之事

信定去戰場園

信定主後遭長沼兄弟事

長沼兄弟突足於甲兵事

信定夫婦避逆菅見之園

信友追長沼之跡事

前編 卷 五

長沼兄弟復讐之事

長沼兄弟討敵青柳園

增城源八議長沼兄弟事

信玄是北朝新之園

志村六兵衛仲相討之事 信玄批判之事

信玄智計陷山領之城事

武田勢圍山領之城園

安中松井田原城之事

新編 卷 六

伊奈勝頼初陣高名之事

武田勝頼討藤井豊後守園

箕輪城合戦之事 勝頼再武田之事

箕輪搦手合戦之事 兵曲剛廣頼働之事

長野信濃守血戦之事 大熊武勇之事

長野信濃守与小幡尾張守撮戦之園

信玄初記卷之一

一〇八七

ル
の
本

繪本烈戰功記惣目録



卷第七

小幡信定大勇返答之事

甲館繁栄信定下城之圖

武田義信逆心之事

飯富昌景義心之事

逆臣殊戮之事 先 義原忠房武勇之事

義原主従討取曾根父子圖

飯富虎昌自殺之圖

原入道信若病死之事 先 馬場景昌成義濃守之事

義信の婦人呼ばば之事

義輪落城之事 先 上泉伊勢守武勇之事
武田家古今集紛失之事
信玄及小幡信定之事
小幡信定到甲館圖

惣目次畢

新編 卷八

武田信虎在後死事

信虎入道練於氏出圖

信虎送密使於甲州事

盃尾の城合戦之事

成田長安供遊之事

長安宴飲之圖

成田家不和之事

長安於寺院計謀兵圖

新編 卷九

謙信攻白井城事

上牧家の勇士與松田戰于陣之圖

城兵追越後勢事

松田孫太郎怪力之圖

長尾政景溺死之事

宇佐義定行食應政景圖

宇佐義家断絶之事

新編 卷十

上州石倉岩合戦之事

武田家緒士縁組之事

草田掃部助武田家使者之圖

小幡又兵衛忠勇之事

山縣昌景難儀之事

加當段藏見奇特圖

飛加當行幻術之事

飛加當發刺謙信事

謙信大勇之圖

新編 卷第十一

長坂長閑失面目事

信玄任大僧正而有和歌會事

武田家勇士致書固於寺外國

信玄賞花而詠歌圖

謙信攻和田之城事

新編 卷第十二

横田十郎兵衛武勇之圖

謙信厩橋在城之事

厩橋合戰之事

信玄察天變而退厩橋圖

上杉謙信義心之事

謙信於櫓上賦詩圖

武田与今川房指之事并氏高敗北之事

武田与北條確執之事

武田北條對陣之圖

總目錄畢

武田北條對陣之圖

63

繪本烈陣功記後篇總目次

後編 卷第一 壹 序

武田北條合戦之事

佐玄以酒勵緒軍圖

甲相之勇士働之事

馬場受濃守武勇之圖

武田玄飯陣之事

原隼人統庵系山啓行之圖

後編 卷第二 貳

原隼人統之傳

原昌俊之妻孺生之圖

川内氏カ記

上牧謙信猛勇之事
北條与上牧和睦之事

謙信与氏安父子對面之圖

武田信玄發及出張之事并津波之事

武田家軍旗之事

高坂彈正練云之圖

後編 卷第 三

武田戸取山合戦之事

小山田信茂破北條勢圖

武田勢攻瀧山之城事

武田勢攻入於小田原事并初麻傳在門武勇之事

康

初麻傳在門酒匂川先陣之圖

北條氏安小田原籠城之事

小田原合戦之事并馬場信房智畧之事

武田勝頼殿武勇之圖

後編 卷第 四

武田信玄軍勢手紙之事

信玄布陣退北條勢圖

三増峠合戦之事

淺利信喜抄死之事并馬場内藤繼之事

北條氏忠武勇之圖

北條勢敗北之事

武田之勇士破小条勢圖

二増合戦評注

同圖

後附 卷第五

佐佐木孫五郎之諸城事

北条氏勝保汝汝之城退去之圖

神系之城陷落并小条新三郎步死之事

小条新三郎血戦之圖

佐佐木攻駿府并岡部次良在門武勇之事

花江落城并繩每理之助事

武田勇士武勇之圖

後附 卷第六

佐佐木聽訟裁許之事

僧与婦人急情似圖

上牧孫佐加勢于小条家事

容星出現之事

判兵庫容星仰圖

佐佐木被挑木像事

韭山合戦之事

辻川系村武勇之圖

後附 卷第七

武田佐佐木智謀之事

武田佐佐木智謀之事

織田

康

信玄北条之陣營見獲圖

北条氏安逃去之事

上杉謙信行願之事

小室相氏政小湯圖

小条氏政降未之事

延曆寺燒失之事

自足利家被送使者於甲越事

信玄上使附面之圖

後編 卷第八

信玄身延山所望之事

身延山守護神出現之圖

上杉謙信出張於長沼 武田勝頼武勇之事

武田小高確執先 信玄病氣之事

上杉謙信退陣之圖

信玄上洛出陣并馬場信房武勇之事

武田勢途中壯觀之圖

後編 卷第九

武田信玄逃去之事

甲陽之軍勢飯陣之圖

高坂彈正忠言之事

勝頼勝軍夜圖

内藤昌豊罵候長事

武田信玄

師部長坂被面辱之圖

後編 卷第十

上牧謙信能助事

上牧勢能及倭海之圖

武田勝頼不受謙信之和儀事

謙信臨七尾城事

謙信軍難見物之圖

上牧謙信武德之事

妖人武威小怖圖

上牧謙信向小多軍軍

後編 卷第十一 織田之

上牧謙信明智之事

江間常陸守生害并宮腰合戰之事

上林家常士武功之圖

上牧謙信加乱入之事

柳崎和泉守別當之事

柳崎和泉吉滅亡之事

柳崎系舍地之圖

上條義春法怪異事

春日山妖怪圖

上牧謙信上洛軍難之事

後編 卷第十二

上表

上杉謙信逝去之事

奇布圖山氣示圖

京虎京勝確執并越後發勅之事

上條茂春武常之事并仙桃院勇茂之事

武田勝頼破上杉勢事

武田勝頼破上杉勢事

勝頼上杉家使者對面之圖

上杉京虎滅亡之事并京勝家督之事

武田勝頼上野圓平均之事

武田上杉和睦之事

武田上杉和睦圖

惣目次畢 36



遷川中島之松樹一臺

松考歲值松

一林分翠雲

甲場一太守
東道武名
振
喉有杉家對
驥蹄未驟
伸

檀春

馬場長濃守信房



小義農入道清石

小幡屋張守信正

武田晴信入道信玄

山縣三郎兵衛昌宗

伊奈四郎勝如

廣瀬郷左衛門



烈陣功言卷之二

小越一名將
用兵如鬼
神
烏袍青竹杖
勃飲德遠
巡

種春

耳槽近江守景時

鏡上野助安清



柳崎和泉守良屋

宇佐義政河守定行

上秋輝虎入道謙信

長尾越前守政景

鬼小嶋弥太景國



長谷千歳色

益裏英風傳

柳田

繪本烈戰功記卷之壹

目錄

武田上杉川中島合戦之来由

武田正兵之十將破上杉之後陣事

武田正兵後西條山馳討川中島圍

上杉勢敗軍之事

武田上杉再大合戦之事

謙信見猛勇臨犀川圍

荒川伊豆輕入武田之本陣事



繪本列戰功記卷之壹

武田上牧川中島合戦之末由

越之危有謀兵者凶器也戦者運徳也雖其當大亂之世而刑以防毒者不可有無斯器也抑我朝争亂之夕應仁以來昔者乃保元以勝之宇宿合戦の巻となり英雄豪傑互出て果亡龍戦虎争更に止付ふ。曰若人王百七代正親町天皇は此所を永禄四年に為し心越の猛將上牧彈正大彌權虎入を謀信甲陽の雲持武田大膳大室晴信入道信玄信州川中島小於く古今に想我を為其係代洋に之を小信州看尾の謀を村上左衛門景信たる者武田信玄と于女共立り年數年其天又十六年其狀八月同圓上田系乃一戦也義清武田乃鋒先

大正二六四世
本校出版部



耳糟近江守退口武勇之本

小幡又兵衛尉討上牧之勇士圖

山田川... 須原...

也。諸將一同... 嚴隊... 合也... 信茂... 尉晴吉... 虎昌... 良右衛門... 傍門... 阪辺... 永門... 廣... 加...

山田川... 須原...

軸... 水堀... 山田... 些... 山田川... 些...

山田川... 些...

新編 武田

19



上
水
勢

武田の正兵衛

武田の
正兵衛
西條山
川中島
駒ヶ野
圖



武田勢

武田大討

敵

柳まぶさしもの城兵。弟後乃敵小じしとて極き上田修程を
死せしむ。あつる勇士救て作て討死す。猛勇傳の上方
勢も。總攻軍中とてぬえとよりある。 一決 一盛

武田上校再大会戦之序

當下上校謙信武田乃旗本に衆入。信法も切付義信も
負せて味方此陣より退り。誓約息を吐かぬの亦も
手此正兵。あ条山とるも近付。後波の速に其槽が破て
名後より。幸店持崎本。弟後此敵も死に
戦とると。謙信馬上は仇と懐やも。領は早蒼蠅の集り
と大軍と成ると。我十分に精とてや。年未の勢は
たり。今も疾飯國ととれぞ。いま追ちして。味方必
引揚

22

日頃の神策一戦に絶たし。米幣えく下知あれ。弟後
駿河守定約。畏懼と音は。手勢と後て。祖出精り
武田勢此横合より。一同に逃れむ。あつる
續く。唐崎孫次郎。去後鉄上野之助。安清大母良
拍崎孫七郎を。名取。副兵。雲霞の
武田勢に割く。入騎る。歩立乃。ひた。高
を。甲兵。四玄路より。得。や。中
田。自分。骨と。血戦。難。一方。血路
謙信。守。引。旗。切。は。兵
は。乃。隙。隊。歩。混。人。立
河。守。定。約。味。方。能。横。引。井。の。字。以。断。決。軍

川内力記卷之二

打居近寄者ハ格首人孫に。一世の勇有震て防戦ハ。重
 信乃横合より。後先と格を殺入
 されど。元来小智の義信勢。ありち。宿立坊。博原ハ。遠
 家の子良堂。痛小ハ。貞敬。又敗走。山田。川井。石田。天
 等も。三ヶ所。四ヶ所。と。腹。義信。大軍。に。押。居。ん。既。二。村。死。し
 こと。なる。所。なる。協。民。部。少。捕。系。政。小。儀。尾。張。也。信。定。小。山。田
 弥三郎信茂。相本市云。清尉。依。赤。河。一。徳。并。志。美。成。て。り。り
 身。加。地。守。佐。兵。が。後。と。暴。直。よ。断。て。入。り。守。佐。兵。定。外。り
 こと。は。佐。兵。親。と。押。也。小。山。田。ね。本。が。格。勢。と。こ。と。却。而。一。村。小
 実。崩。え。ん。ど。形。勢。と。こ。と。順。田。右。衛。門。尉。安。田。上。徳。助。山。吉。玄。春。吉

事
 部

志。後。河。武。田。勢。北。中。へ。面。も。や。ぐ。切。り。入。り。荒。川。伊。豆。鬼。小
 修。弥。太。郎。致。上。野。山。幸。安。子。代。大。國。平。上。条。弥。三。郎。其。體。後
 并。孫。下。世。若。井。名。四。郎。木。乃。當。士。一。足。も。引。と。血。戦。す。名。又。上。取。武。田
 比。割。兵。一。世。の。勇。と。震。撃。せ。も。突。も。半。太。や。ん。東。あ。は。地。遠。し。南。小。小
 分。と。絶。ち。り。て。討。ち。有。り。貞。直。を。う。り。以。高。の。勢。は。是。又。食。料。働。り
 せ。る。者。と。切。付。る。有。振。り。と。海。断。絶。と。あり。内。用。以。突。き
 て。作。互。有。突。き。と。り。に。滄。と。た。ら。ん。と。有。骨。碎。因
 け。微。塵。粉。灰。と。ち。り。と。互。小。討。り。ぬ。り。突。つ。作。る。の。茶。に
 成。く。苦。戦。と。戦。今。曉。卯。の。一。天。又。始。り。今。午。乃。上。刻。又。な。れ。ど。
 息。次。の。隙。を。く。愛。小。戸。孫。と。り。か。小。首。と。格。を。う。ち。魯。陽
 二。度。向。骨。死。し。孫。轉。據。に。戦。ち。も。う。ち。や。り。ん。お。め。き。さ。ん。が。ぶ

川。我。力。已。見。一

若野のふりて刃削鐔と割青山若野に死す。天正九年
 勃して今車覆つてくつて死す。尸を後ぐ山に葬る。血の
 塵麻乃川に流す。紅は并と相し。殺氣天に掩。若野の川
 河川に死す。中も死す。武田乃正兵衛に死す。近つて
 上校勢分亦破る。いふに死す。一に破てき系給。騎兵も
 中へ大山北崩あがぐ。重し。人圍と毀して切す。其
 中にも鉄屑兵部少輔同三郎去清。言坂彈正小山内儀中。先よ
 衆也。孫信公が打ち死す。此一戦は。や人引ふ者。其
 轉坪に衝立。大青小下知分。白也。度。油。剛。三。料。備。倉
 早川。辻。飯。嶋。菅。沼。石。等。の。常。士。孫。信。公。小。人。素。せん。考。ぐ
 程。に。上。校。海。軍。の。若。野

少も早も。今。變。と。す。の。善。戦。也。太。刀。折。終。た。り。み。大。川。後
 河。原。名。と。る。常。士。七。將。八。例。と。討。死。に。指。柴。丸。六。其。川
 平。太。夫。作。保。長。七。ホ。乃。毎。乃。此。割。兵。も。痛。を。と。け。我。兵
 引。中。も。た。り。跡。も。な。し。武。田。の。勢。も。み。湖。の。傍。が
 引。に。掩。殺。と。れ。を。戦。兵。殺。す。と。な。り。遂。は。總。敗。軍。と。成
 ず。摩。河。の。水。推。ち。水。小。溺。る。兵。卒。殺。す。孫。信。馬。上
 に。佐。と。ん。定。め。師。も。最。早。是。す。と。り。と。向。入。騎。了。武。者。十。三
 騎。を。此。下。に。切。て。落。す。其。早。業。に。人。間。業。と。り。今。を。り
 たる。これ。は。怖。ま。て。近。所。を。の。ち。く。る。若。野。者。と。ん。る。い。ま。示
 教。生。月。毛。一。鞭。加。へ。の。摩。河。へ。入。る。白。浪。現。れ。若。野。の
 づ。り。も。大。家。乃。陰。海。軍。の。甲。兵。早。も。眼。が。は。き

烈戦功記卷之一

廿三

謙信



謙信
 見ゆ
 勇
 犀川
 の
 國



敵指

練

万葉記卷之一

あまのつと大將謙信ありて討まひしとてはるるに
 追来りて内中聖なるに助和田去去清是れ大おのり
 大車とあのかを打ちて一はは孤舟岸よりさく血戦はせ
 ひまよ大將謙信向者にせよとて糧のあはれ走らせて味方
 此勢を信るるよと武田方長坂入道長雨一手に兵士追はせ
 一多き。内中しと丸圍と謙信世々も。三人六寸小豆
 長光の太刀が振る。四方八面に切伏せしるそのの。一く
 蹴例一。あはれなる糧帯に怖とて。入者もた
 されど名そのの放生月毛も。救刻の。いよ痛さの負も
 我るに謙信と家。自歩立ちて成く。和田去去清と只ま人謙信の

川内カ記卷之一

た右より引海王後三孫。梨山と引引。長坂の兵糧運來
 はく取圍。首。な。呼。宇野。助
 きて返。小。丘。又。武田。勢。刻。入。猛。雷。の。震。て。討。死
 其隙より上校輝虎入道謙信。和田去去清と引果。梨
 山よか。徐。引。長坂の兵士。謙信が討。し
 それども。放生月毛を引。是ぞ。將。謙信乃。桑馬を
 追討して奪。川。又。摩。川。寺。後
 まで。味方。引。入。案
 荒川伊豆守殿。武田之。本陣。事
 却説。上校方。乃。名。得。依。荒川伊豆守。京。親。も
 謙信恩顧の勇士たり。ち。兼。謙信。憤。怒。乃。意。と。察

滅

耳槽近口守退口武勇之率

當下武田勢を四方に馳て進發討兵を付分取申すも
早雄の兵。篠信の高梨山へ遁移す。何雨すも追行
討兵と名せよ。勢くはゆるりつ。犀川の方へ進めしに
後の方に一流北旗。川凡は翻舞や舞う。其勢凡一千餘騎
上取お傳禰の丸北は推し。一隊乃軍兵魏然とす。武田
武田勢凡八方に伏掛ひ。荒間川の此方。に候とす。大将信玄
が旗を目掛け押来れ。これとて武田勢。須波猶篠信
を跡まきぞや。兼て信玄も又紐んと思惟有し。やまきけを
か。あくも後陣を止り。而旗を以不意と討。再び勝負を決
せん。と支度と覚る。而大おの旗を。や大半おれ。追行

7p

敵

軍兵共須臾の間は難集り。良孫。くうくえん。りちり。大將信玄
此とも動ぜぬ。今期平が旗を以。おれ。又傷。一。や。心
みく。篠信と。原。大。濁。撃。ま。く。道。ぬ。く。ど。今。又
敗兵。以。多。く。予。が。軍。陣。小。向。り。ん。と。篠。信。も。さ。て。あ。る。と
か。い。て。上。押。来。ふ。敵。軍。小。必。死。の。言。威。を。顯。り。せ。ず。も。將。の
の。氣。立。り。察。と。る。ふ。これ。上。取。が。紐。と。な。り。此。方。の。大。勢。の。後。に
の。味。方。は。眼。を。迷。と。せ。篠。信。が。五。半。に。篠。信。と。さ。る。上。取
忠。義。の。者。り。あ。ら。わ。ん。必。と。篠。信。と。て。有。し。耳。槽。近。口
は。備。々。と。う。信。長。後。河。を。さ。す。彼。紀。信。魏。約。が。志。は。は。ど
一。命。以。贖。罪。と。し。し。ち。王。篠。信。を。討。つ。と。然。れ。當。士。の
誰。も。う。と。有。と。死。故。あ。る。も。威。ど。る。余。ま。り。予。が。さ。す。と

武田の日記

二二

敵

聞え

勝る軍。軍心を送さんや。彼軍... 早く廣敷の戦へ。軍使... 引くもなれば。先信... 一陣間... 岸より... 推... 也... らぬ... 威を示し。鶴の後足... 大身の槍引

敵

そども。丸徳の中央... 川... 見え申す。武田の... 徐くと引... け時言坂... 志る... 有... 下... 武田勢

川口戦功記卷之一



上杉



小幡又兵衛

小幡又兵衛尉
 上杉の
 殿の
 勇士と
 討つ

